

2. 授業評価アンケート調査結果

人間科学研究科では、平成16年度より、毎学期末に授業評価アンケートを実施することになっている。平成20年度は前学期7～8月、および、後学期1～2月に、全科目全受講学生を対象として実施している。有効回収数は合計4,670件であり、その内訳は以下の表（表1および表2）に示す通りである。

表1 前期提出数の内訳

授業形態	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入	合計
院科目	88	145	59	61	14	12	48	427
学部演習	60	53	39	9	5	0	8	174
学部講義	244	330	215	58	81	165	381	1473
実験実習	29	30	34	4	9	0	4	110
卒業研究	14	22	18	0	0	0	7	61
総計	435	580	365	132	109	177	448	2246

表2 後期提出数の内訳

授業形態	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入	総計
院科目	103	176	45	67	19	28	53	491
学部演習	79	37	36	14	5	1	9	181
学部講義	388	345	215	104	111	122	231	1516
実験実習	63	57	31	10	4	1	7	173
卒業研究	19	19	19	0	0	0	6	63
総計	652	634	346	195	139	152	306	2424

この授業評価アンケートでは、授業の満足度、受講を決めた理由、授業環境などが、毎回ほぼ定型の質問文により尋ねられている。回収されたデータは数値化して集計されているが、それぞれの担当講師に対するコメントや要望も同時に自由記述により記入・回収され、個別の授業の改善に役立てられている。

以下、数値化されたデータから重要と思われるポイントについて、集計結果をグラフによって示す。

① 授業環境について

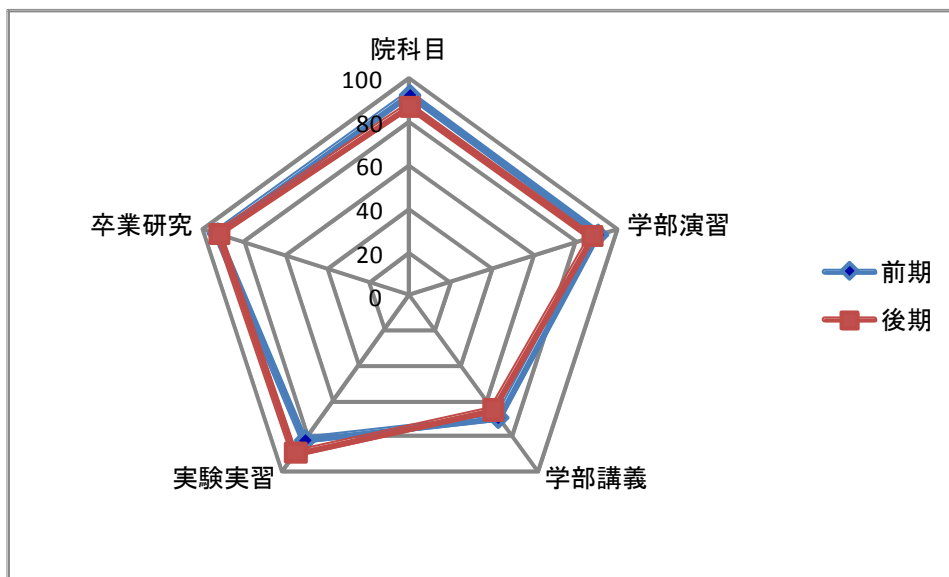


図 1 「授業環境に問題なし」の回答の科目形態別比較 (%)

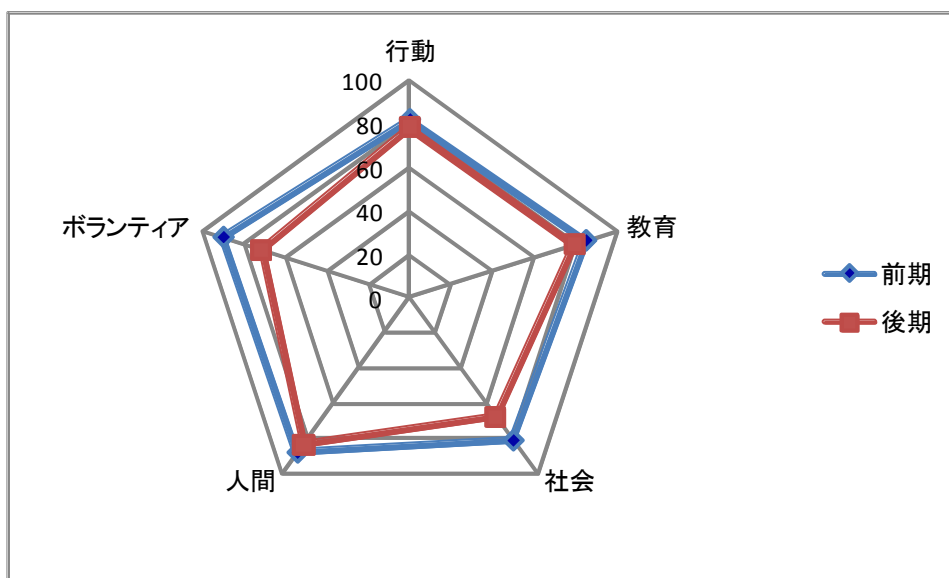


図 2 「授業環境に問題なし」の回答の学系間比較 (%)

図 1、図 2 は授業環境に関する学生の評価結果である。授業環境については全体として大きな問題はないと思われるが、前後期での比較では後期において社会系とボランティアで問題なしとする比率が低下している。

表 3 「改善してほしい授業環境」の学系間比較（前期）

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入
問題無	81.77	85.45	80.84	87.72	90.00	51.57	58.68
マイク	2.28	1.41	0.30	0.88	0.00	11.95	11.32
モニタ	6.58	4.44	4.79	1.75	1.25	13.21	14.21
照明	1.77	1.21	0.00	0.88	0.00	1.26	1.05
教室サイズ	2.78	5.45	10.78	1.75	7.50	15.72	12.89
椅子机	3.29	1.41	1.80	1.75	1.25	11.32	6.58
室温	7.85	5.05	5.09	7.02	0.00	13.21	12.37
騒音	0.51	0.00	0.00	0.00	1.25	1.26	1.32
私語	0.51	1.01	0.30	0.88	1.25	6.29	5.00
携帯電話	0.25	0.00	0.90	0.00	0.00	1.26	1.05
人数	395	495	334	114	80	159	380

表 4 「改善してほしい授業環境」の学系間比較（後期）

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入
問題無	78.06	79.39	67.31	82.58	71.32	52.17	63.60
マイク	2.38	3.75	2.88	2.25	4.65	16.67	11.49
モニタ	7.48	4.77	6.73	2.81	7.75	17.39	11.88
証明	1.02	0.68	0.96	1.12	1.55	2.17	0.38
教室サイズ	4.76	4.60	8.65	3.93	6.20	11.59	9.58
椅子机	2.55	0.85	2.88	0.56	3.88	10.87	10.34
室温	9.69	9.37	17.31	10.67	11.63	16.67	8.81
騒音	0.51	0.00	0.32	0.00	0.00	0.72	1.15
私語	1.87	0.85	1.92	1.12	0.78	5.07	2.30
携帯電話	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.77
人数	588	587	312	178	129	138	261

表 3、表 4 は授業環境についての学生の要望を所属系別に示したものである。また表 5 は後期の比率から前期の比率を引いたものであり、黒字は増加(改善の要望が増えたことを意味する)、カッコのついた赤字は減少(改善の要望が減少したことを意味する)を示している。前後期を比較すると、どの学系でもマイク、モニタ、室温で改善要望の増加が見られるが、特に室温に関しての変化が大きい点が特徴的である。

表 5 評価の変化（後期－前期）

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入
問題無	(3.71)	(6.07)	(13.53)	(5.14)	(18.68)	0.60	4.92
マイク	0.10	2.33	2.59	1.37	4.65	4.72	0.18
モニタ	0.90	0.33	1.94	1.05	6.50	4.18	(2.33)
照明	(0.75)	(0.53)	0.96	0.25	1.55	0.92	(0.67)
教室サイズ	1.98	(0.85)	(2.12)	2.18	(1.30)	(4.13)	(3.32)
椅子机	(0.74)	(0.56)	1.09	(1.19)	2.63	(0.45)	3.77
室温	1.85	4.32	12.22	3.66	11.63	3.46	(3.56)
騒音	0.00	0.00	0.32	0.00	(1.25)	(0.53)	(0.17)
私語	1.36	(0.16)	1.62	0.25	(0.47)	(1.22)	(2.70)
携帯電話	(0.25)	0.17	(0.90)	0.00	0.00	(1.26)	(0.29)

② 授業選択理由について

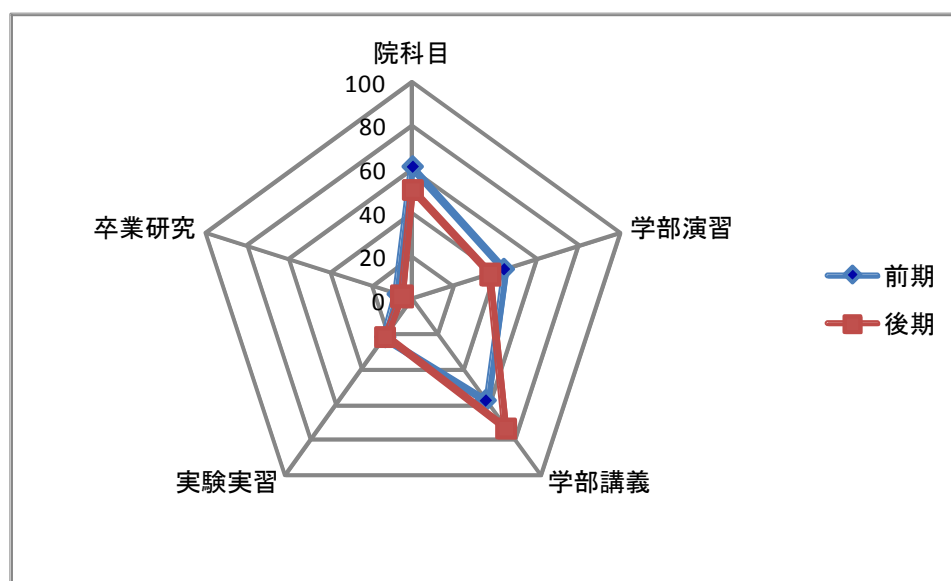


図 3 「授業選択理由：シラバスに興味を持った」の授業形態別比較 (%)

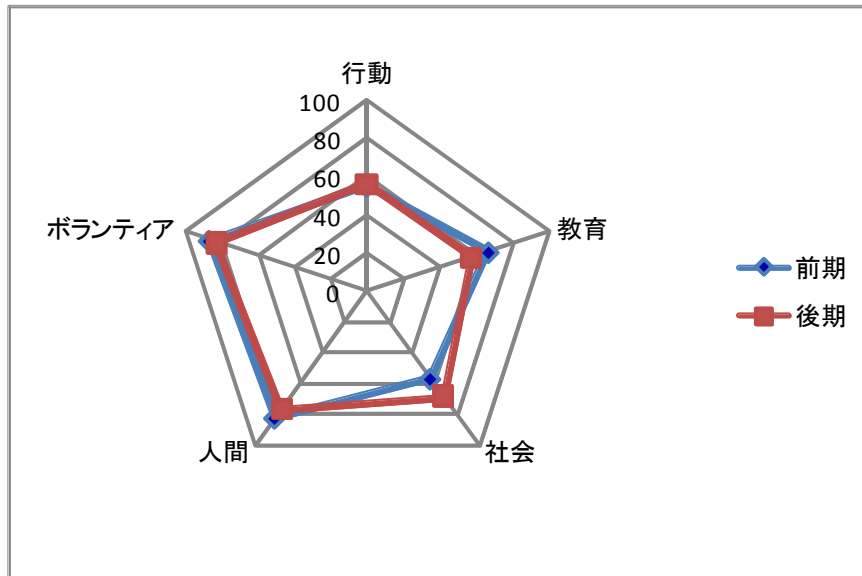


図 4 「授業選択理由：シラバスに興味を持った」の学系間比較 (%)

図 3、図 4 はシラバスが有効に利用されているかどうかを示すために、受講を決めた理由として「シラバスに興味を持った」という項目が選択された率を示したものである。図 3 については、学部講義についてはシラバスが授業選択に有効に利用されていることがわかる。また、より演習・実習ではシラバスに興味を持ったと回答することは少ない。これらの科目はそもそも専門性の強い内容を扱うものであり、また自分の専攻する領域の学習にとっては必須であると考え、シラバスの内容に関係無く受講することが多いということが推察される。一方、講義系科目ではシラバスの内容が受講の意志決定に重要であることがわかる。学系間の比較では、ボランティア人間学系、人間学系では前後期を通してシラバスに興味を持ったと答える割合が高い。

また前後期の比較では、特に社会系では後期の学部講義においてシラバスに興味を持って選択した率が高くなっている。

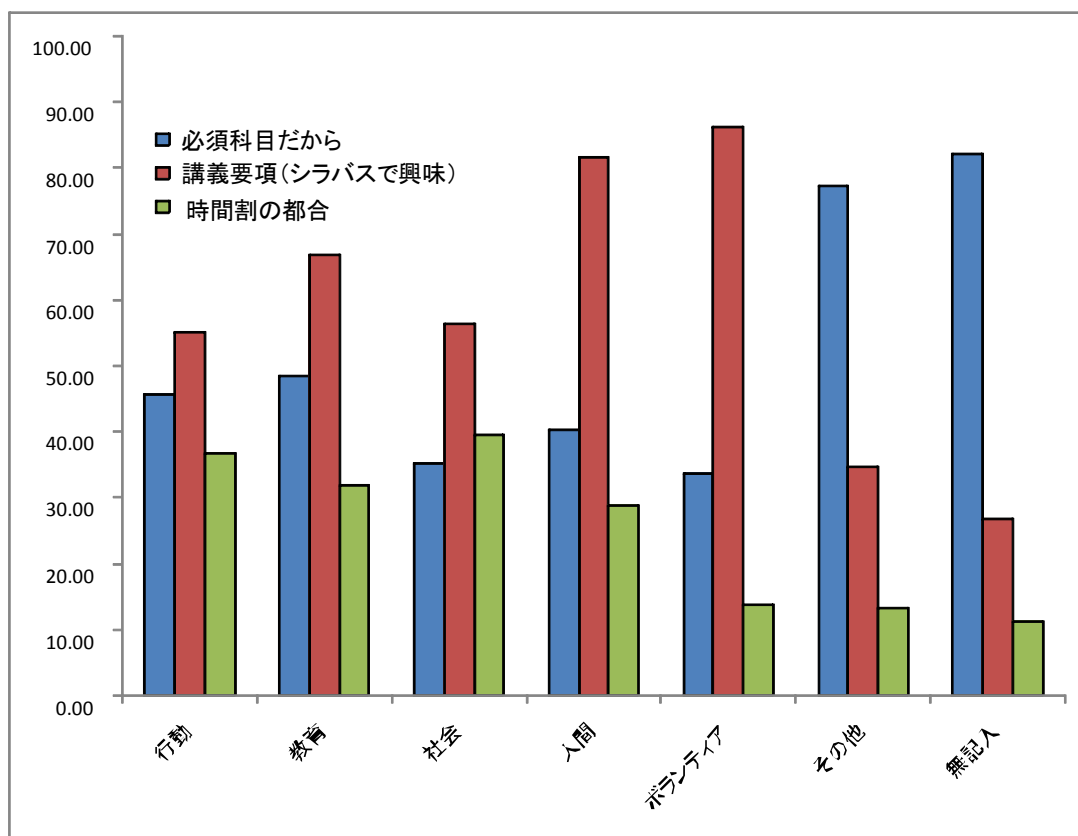


図 5 授業選択理由 (前期)

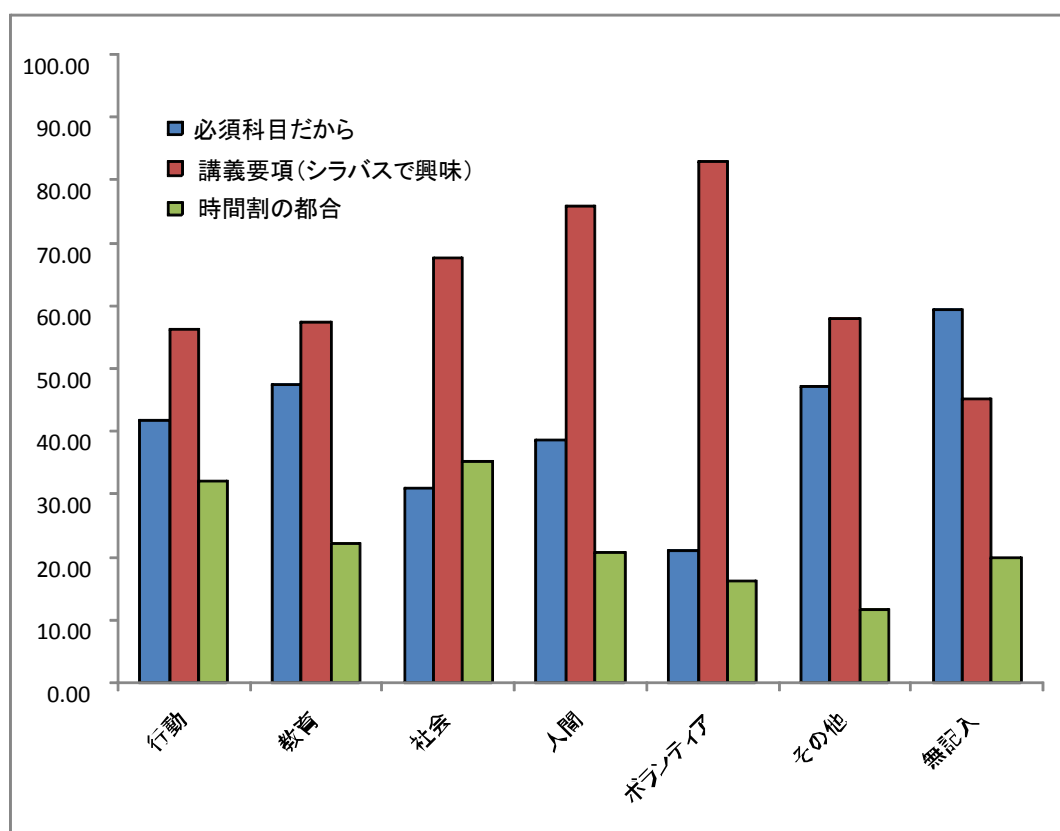


図 6 授業選択理由 (後期)

図 5、図 6 は授業選択理由に対する学系別の結果のうち「必修科目だから」「講義要項（シラバスで興味）」「時間割の都合」のみを取り出し図示したものである。前後期とも、またどの学系でも、シラバスで興味を引かれ受講したと答える割合が最も高いが、その傾向は特に人間系とボランティア人間学系で顕著である。

③ 授業の満足度について

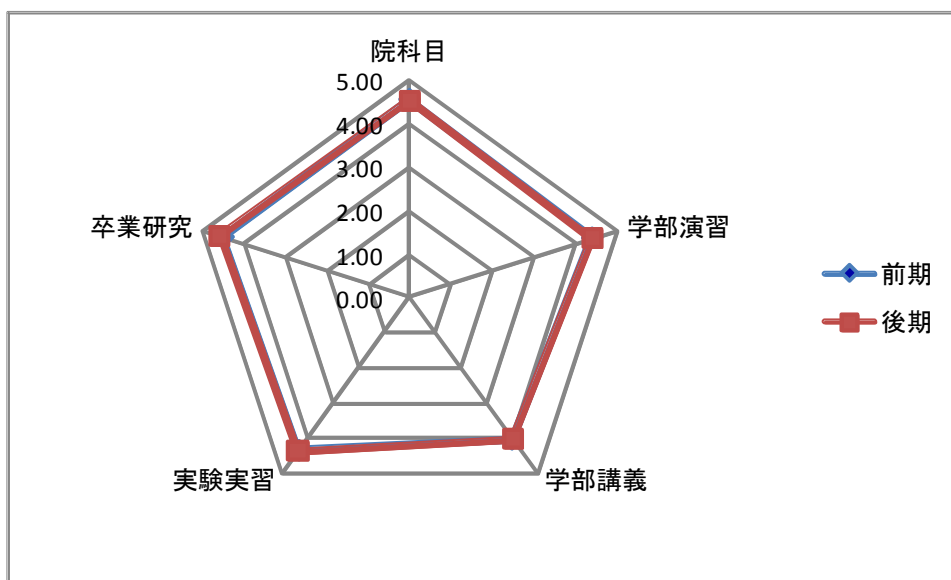


図 7 総合満足度の授業形態別の比較

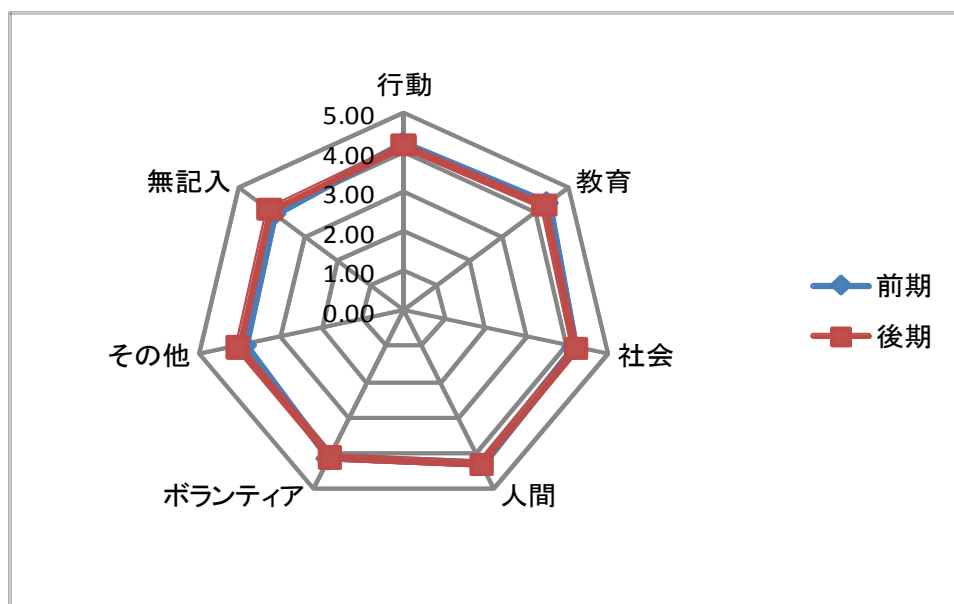


図 8 総合満足度の学系比較

図 7、図 8 は授業の満足度について結果を見たものである。授業形態別では学部講義の評価がやや低い。また、学系間、前後期での違いはほとんど見られない。

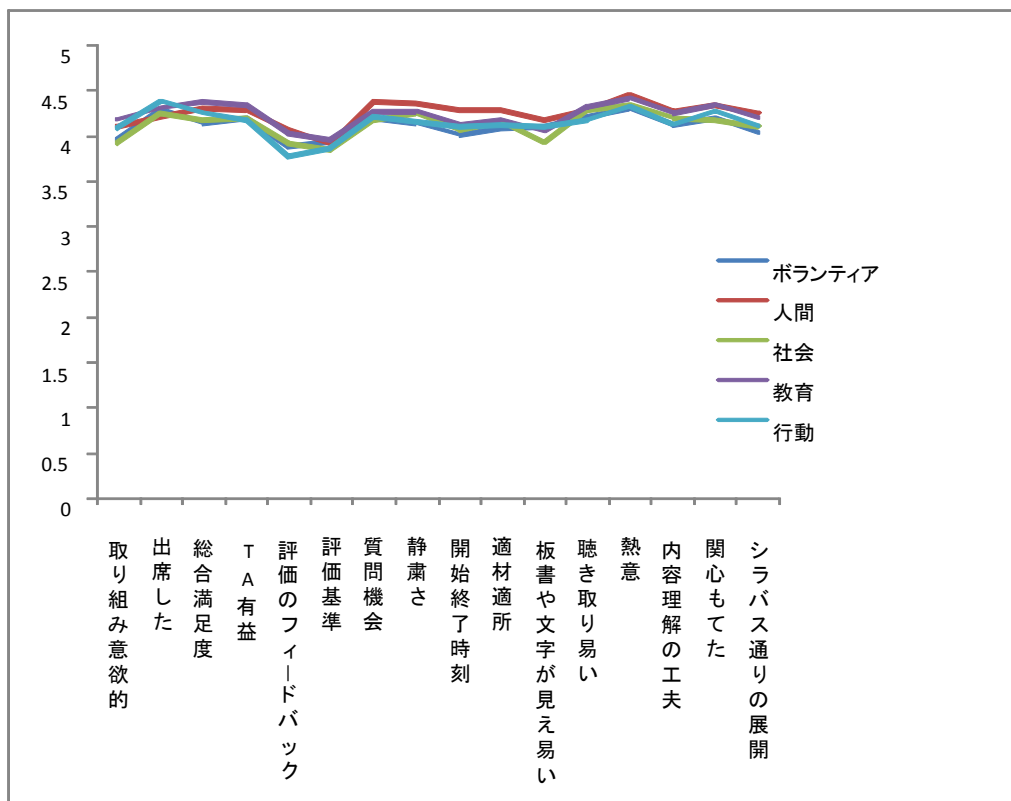


図 9 自分が所属する学系の科目に対する評価 (前期)

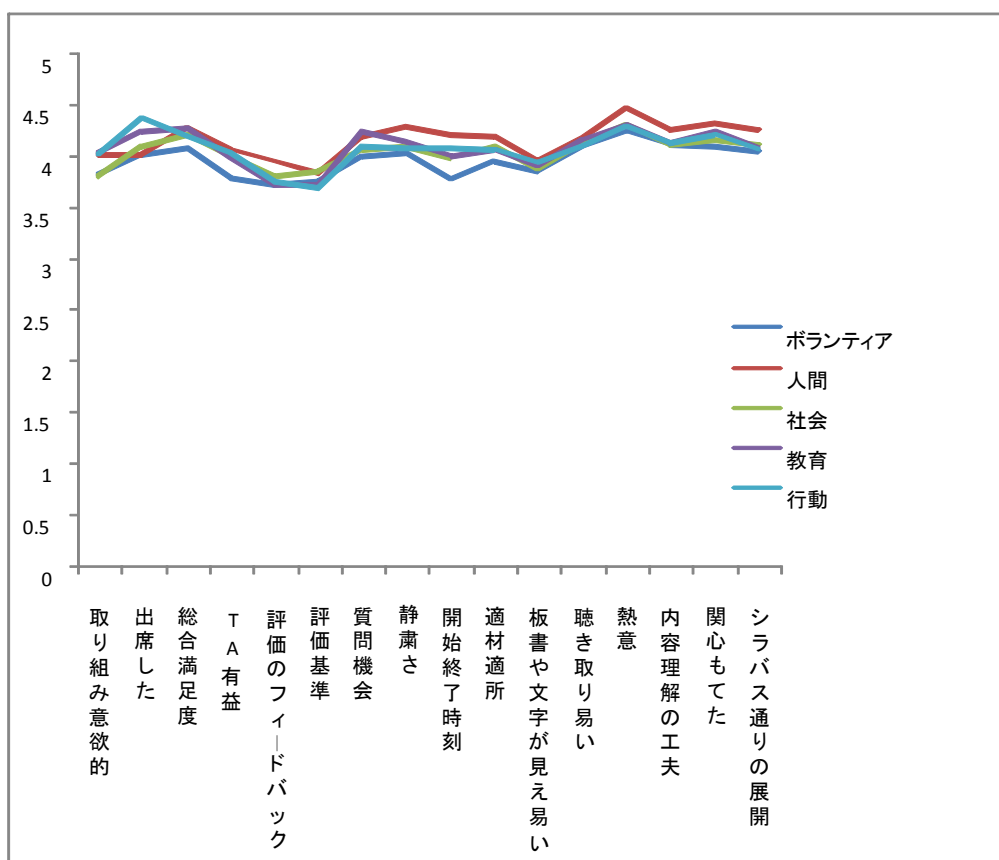


図 10 自分の所属する学系の科目に対する評価 (後期)

図 9、図 10 は、各学系に所属する学生が、自分の所属している学系の科目に対してどのような評価をしているかを見たものである（得点が高いほど肯定的評価を意味している）。評価項目により学系間で差異があるが、その差はさほど大きいものではない。全体的に、人間学系で評価が高い点が特徴的である。

④ 総合満足度の比較

【学部科目】

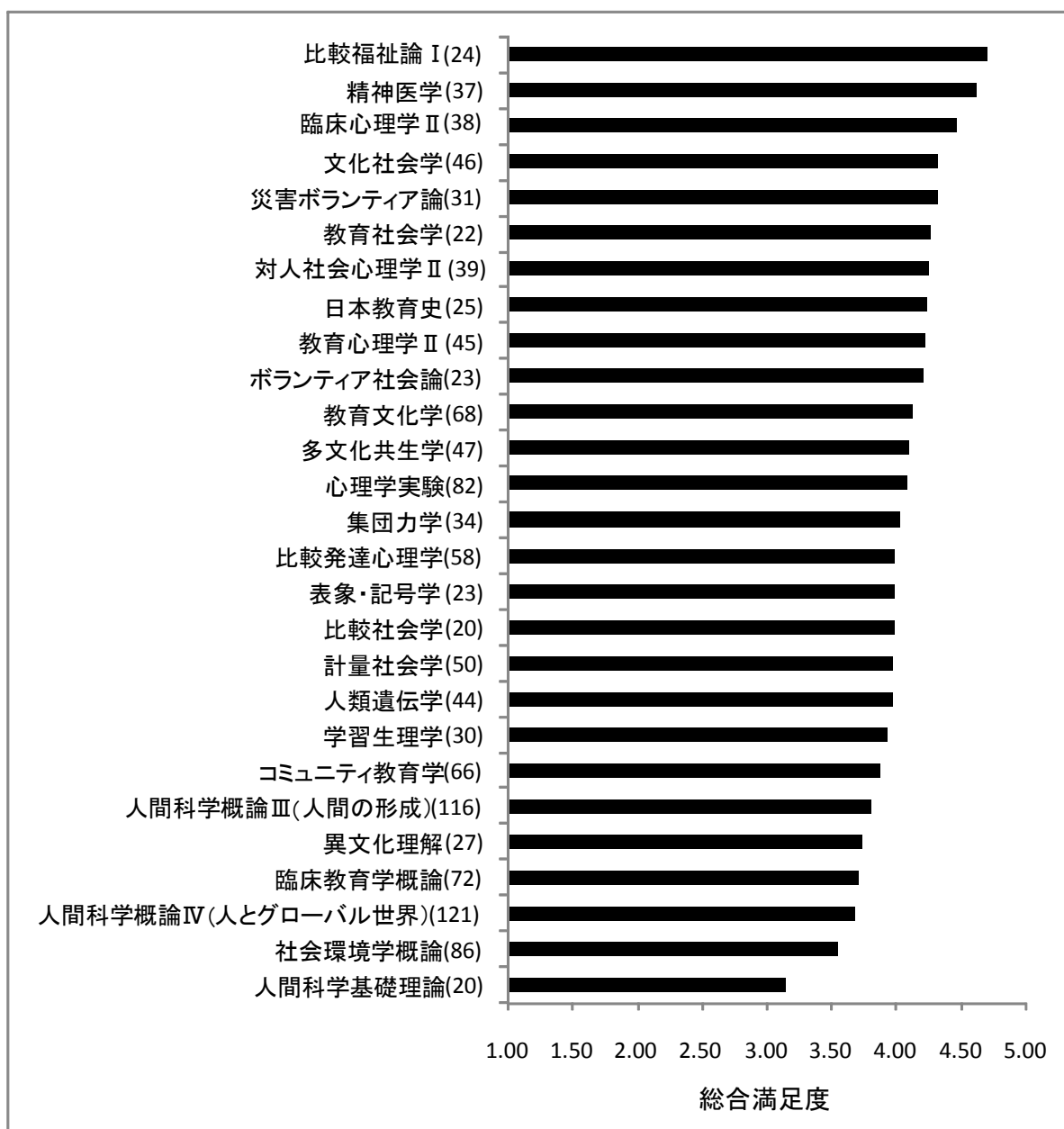


図 11 学部講義科目の満足度の比較（受講生が20名以上）前期



図 12 学部講義科目の満足度の比較（受講生が20名以上）後期

図 11 と図 12 に、学部講義科目（受講者が20名以上の科目のみ）に関する満足度を示す。得点が高いほど満足であることを意味している。なお、科目横のカッコ内の数字は受講者数を示す。

講義科目で4以上の評価となった科目は、前期では比較社会学から比較福祉論までの17科目、後期では心理学測定から基礎心理学までの16科目であった。前期においては、教育学科目が5、行動学科目が4、社会学科目が2、ボランティア人間学科目が4、人間学科目が1、共通科目が1であった。後期においては、教育学科目が5、行動学科目が5、社会学科目が3、ボランティア人間学科目が1、人間学科目が1、共通科目が1であった。

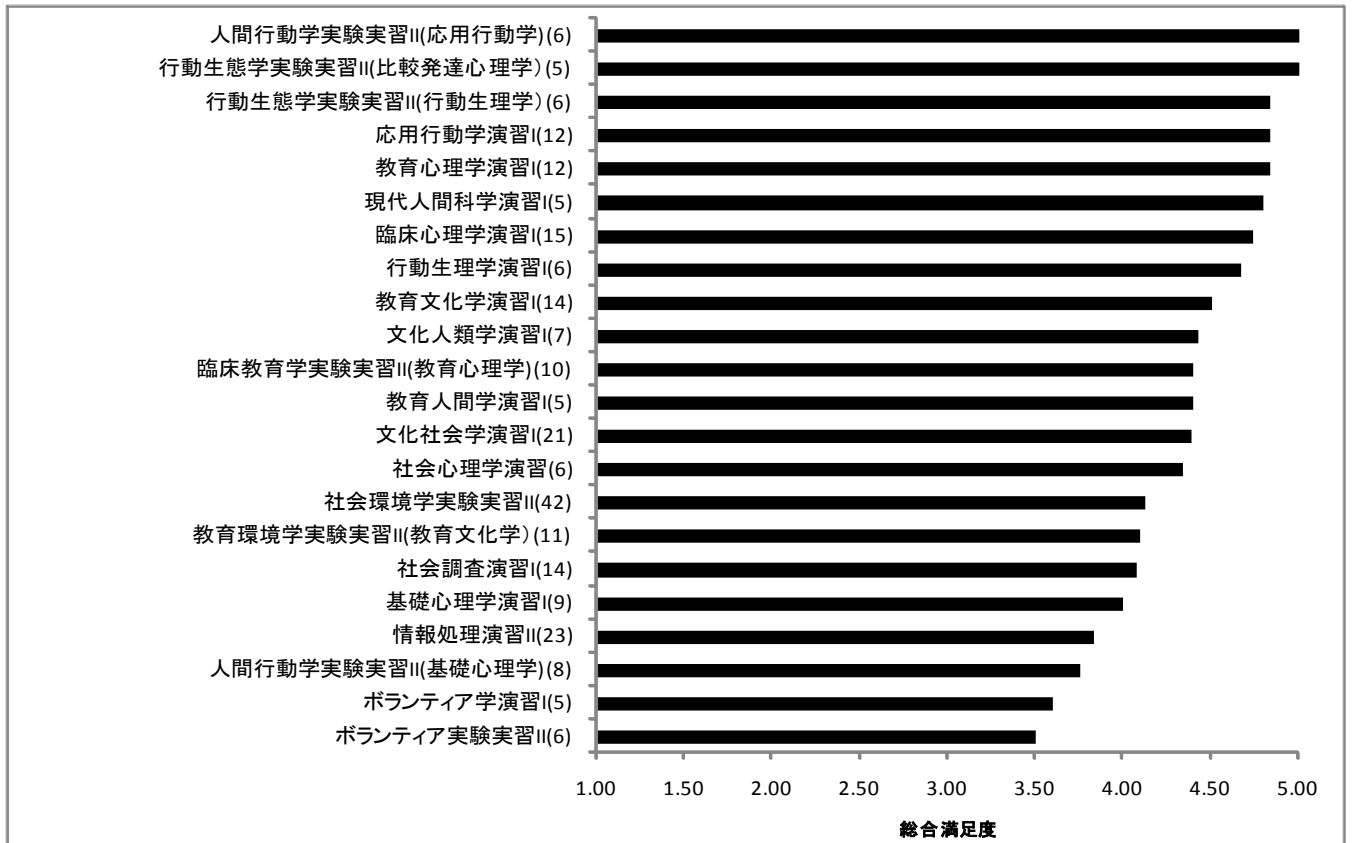


図 13 学部演習・実習科目の満足度の比較（受講生が5名以上）前期

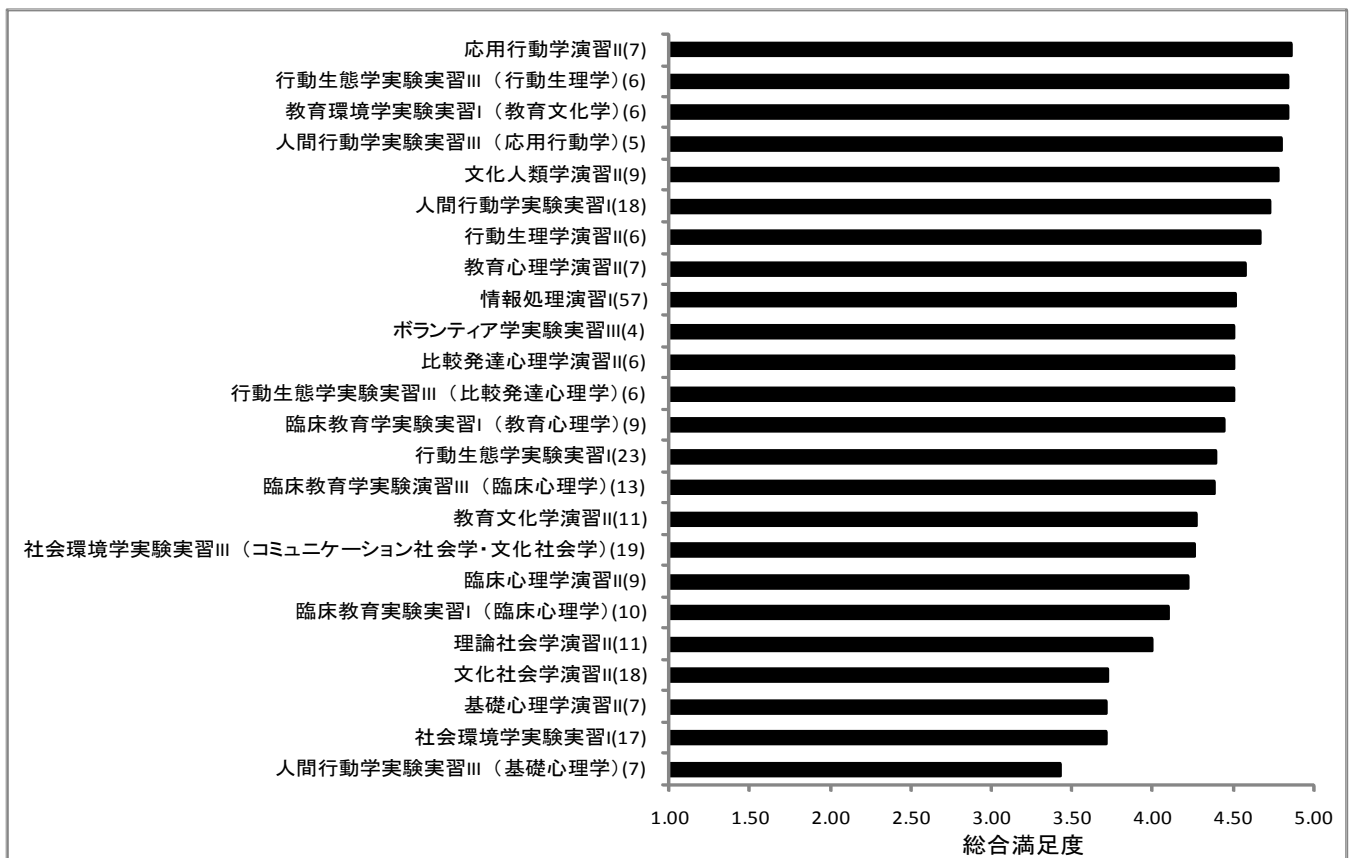


図 14 学部演習・実習科目の満足度の比較（受講生が5名以上）後期

図 13、図 14 に、学部演習・実習課目（受講者が 5 名以上の科目のみ）に関する満足度を示す。いずれも満足度が高い。この傾向は例年の調査と同様であるが、演習・実習科目が講義科目と大きく異なっている点は、少人数で経験・実践を行うという密度の高さである、この特徴が学生のコミットメントを高め、満足度を高めることにつながっていると考えられる。

【大学院科目】



図 15 大学院科目の満足度の比較（受講生が 5 名以上）前期

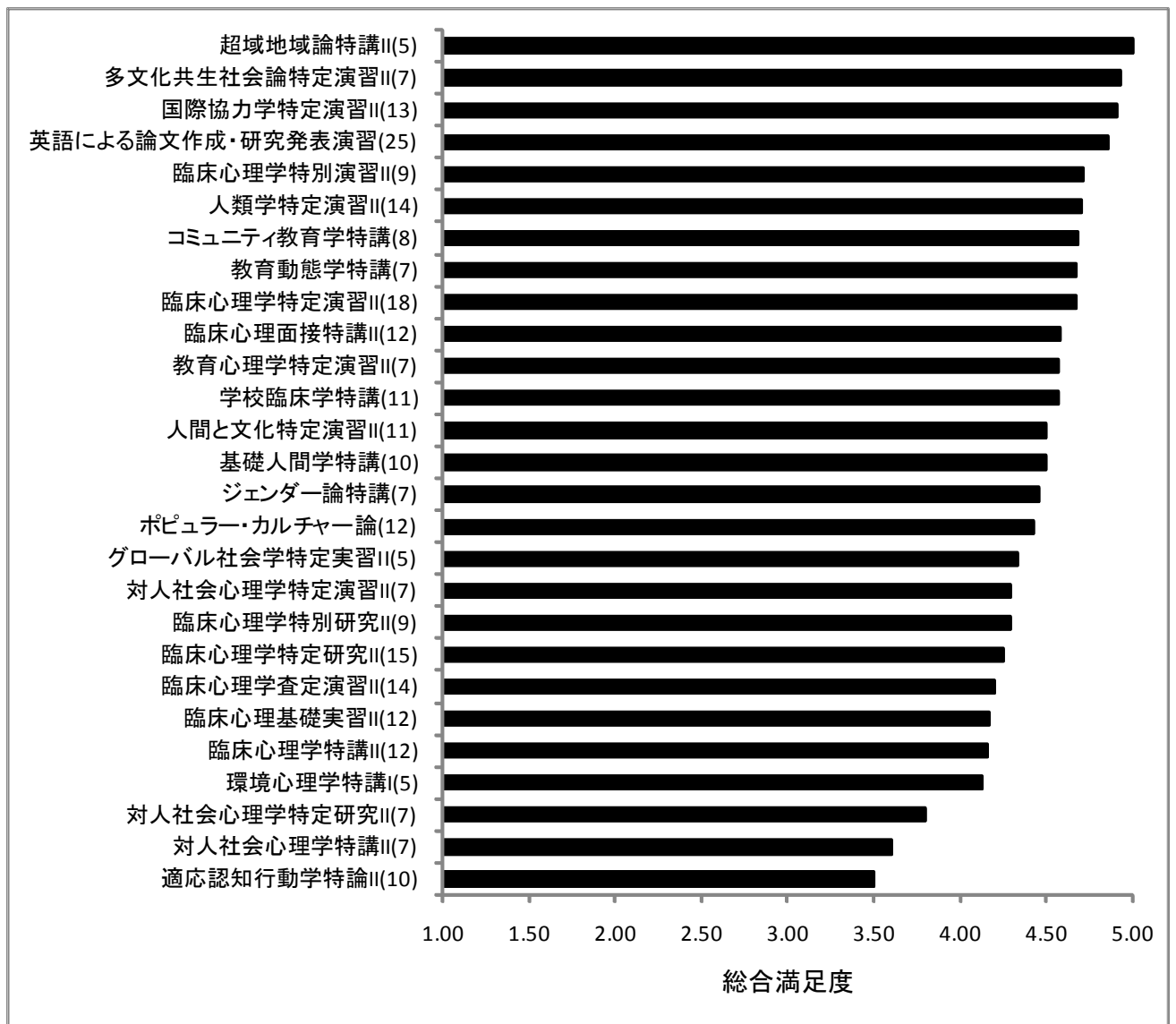


図 16 大学院科目の満足度の比較（受講生が5名以上）後期

図 15 と図 16 に、大学院科目（受講者が5名以上の科目のみ）の満足度を示す。いずれの科目も満足度が高い。これは、学部生に比べて学術的関心がより明確になっている大学院生が自分の関心に沿った科目を選択し、それらの科目のほとんどの場合少人数で実施されていることによると思われる。